学校法人京都中央看護師養成事業団　令和5年度事業計画

■事業計画

（専）京都中央看護保健大学校は前年度に創立40周年を迎え、記念誌の発行のほか、第1看護実習室の改修やモデル人形をはじめとした教材の更新などの記念事業を行った。施設設備に関してはまだまだ対応が必要な課題が残っているため、令和5年度も引き続き関係の皆さまからのご支援を受けながら、記念事業の一環として整備を進めていくこととする。

また、学校運営において様々な面で大きな影響を与えてきた新型コロナウイルス感染症が、本年5月、感染症法上の分類が5類に移行され、行動制限の解除等、新たな局面を迎える。ICT環境の整備やオンライン授業・テレワークの推進といったコロナ禍における数少ないプラス要素については継続・発展させながら、“Afterコロナ”に対応する学校運営、教育を模索していかなければならない。

こうしたことを踏まえて、令和5年度は次の5つを重点項目として、（専）京都中央看護保健大学校の運営に取り組むこととする。

【重点項目】　1　安定した学校運営と教育環境の整備
2　18歳人口の減少を見据えた学生確保対策の展開
3　本大学校の独自性を活かしたカリキュラムを運用し、より充実した教育を行う
4　Afterコロナ時代の「新しい教育」の実現
5　教育実践能力の向上

1　安定した学校運営と教育環境の整備

令和2年度に消費税率変更に伴う授業料の改定を行ったが、令和5年度は完成年度となり約1千万円の増収効果が得られることとなる。また、新型コロナウイルス感染症の影響により感染対策費、PCR検査料、補習授業の講師料等の出費が嵩んだが、5月8日に第5類へ移行することが予定されていることからこれらの出費は軽減されると予想される。

令和4年度は、創立40周年事業として病院関係者、卒業生等からの寄付等と銀行からの借り入れを活用し、本館3階の実習室の改修、実習備品類の更新を行い、看護実習の教育環境を大幅に改善することができ、授業、学生募集等に絶大の効果があった。

他方、昭和58年に竣工した本館、平成3年に増築した北館は経年劣化も進んでいるが、前回の大改修以降20年が経ち、本館屋上の雨漏り、外壁剥離の懸念、壁・配管等の塗装の劣化の問題が生じている。また、大学校の顔となる看板・植栽等の玄関周り、ICT化された教育環境に適した教務室等の改修など、引き続き対応すべき修繕が目白押しの状況である。

令和5年度も引き続き、看護教育の推進に適した建物環境と機能性を確保し、併せて少子化の時代に対応できる学生募集の一助とするため、学校法人の財政状況を注視しつつ寄付も活用しながら創立40周年事業を継続する第2次工事として必要な施設・設備の改修に取り組む。

2　18歳人口の減少を見据えた学生確保対策の展開

令和4年度に実施した入学試験は、実受験者が前年度の30％増という結果となった。競争のなかで入学定員を確保することができ、危機感を持って臨んだ結果としては、少しではあるものの安堵できるものとなった。

しかしながら今後も18歳人口が減少し続けることは数字的にも明らかであり、学生を確保することがより一層困難になることは疑いようのない事実である。

こうしたなかで安定的に学校運営を行うためには、ソフト・ハードの両面において“魅力ある学校”を目指し、そしてその時代の志向に応じた募集活動を展開することで学生を確保していくことが重要である。

幸い、学校創立40周年記念事業の継続によって今後もハード面の整備が進められることや、令和4年度からの新カリキュラムによって学校や学科の独自性を生かした教育内容を組み込み、ソフト面を強化している。さらに、ICT環境の整備が進んだことで、オンラインでのオープンキャンパスの実施やSNSを活用した情報の発信を行うなど、今後に向けて一定の準備が整っている。

令和5年度はこうした環境を活かしながら学生募集活動を展開するとともに、今後の厳しい状況を乗り越えるための中・長期的な環境整備計画、学生募集計画を検討していきたい。

3　本大学校の独自性を活かしたカリキュラムを運用し、より充実した教育を行う

教育理念をもとに各学科で明確にした3つのポリシーから、特徴あるカリキュラムを構築し、令和4年4月入学生からスタートした。令和4年度のアセスメント・ポリシーをもとに評価し、導き出された課題を令和5年度はより充実した教育を目指して進めていきたい。

新型コロナウイルス感染症により、新カリキュラムの教育も影響を受けた。令和5年度はコロナにより変化した教育現場や臨床現場の課題に柔軟に対応しながら、より質の高い看護職の育成を目指していきたい。

3年次の学生（令和3年度入学生）は第4次カリキュラムの教育を受けているが、看護師国家試験は第5次カリキュラムの規準で受験することになる。2年後の国家試験に向け対策を検討し、早期から進めていきたい。

4　Afterコロナ時代の「新しい教育」の実現

令和2年に国内流行が始まった新型コロナウイルス感染症は3年が経過し、それまでの生活様式や働き方を変化させただけでなく、教育においても新しいスタイルへの転換を余儀なくさせられた。

本大学校においても、感染対策のための設備整備を行うとともに、教育に関しては短期間でICTを活用した教育環境整備を行った。しかし、感染防止のためのマスク着用、オンライン授業等が人間関係を希薄にしているのではないかと懸念されているが、第5類に移行した後は、感染対策のための設備は感染拡大前の状態に平常化し、マスクを外すことや対面授業を増やす方向で、face to faceの看護教育に取り組むこととしたい。

また、令和5年度からはiPadと電子書籍を活用した「新しい教育」を導入する。導入にあたってはICTの技術の向上や授業方法の開発、教材（資料、画像等）の電子化、情報保護の問題など様々な課題が山積している。ついては、学内で立ち上げた「ICT教育推進委員会」において他校の情報収集や運用マニュアルの作成などを行いながら、「新しい教育」を軌道に乗せていきたい。

5　教育実践能力の向上

コロナ禍により、教育現場の環境が大きく変化した。オンライン授業と対面授業を効果的に活用する教育方法が必須となり、これによって教員のICTの活用能力が向上することとなった。また、ICTの推進は研修環境の変化にも繋がった。研修会がオンライン化し、参加する機会が増えたことで、それぞれが自己の教育力の向上に向けて取り組みやすくなっている。

他方、ICT環境の整備によって「新しい教育」の方法が開発され、また、新カリキュラムの導入によって教育内容が充実することで、教員の自己研鑽がこれまで以上に必要となる。

令和5年度はこれらをタイムリーに取り入れ、さらなる教育力の向上に向けて研鑽できる環境を整備していきたい。

それぞれがつけた力を皆でつなぎ、共有し、（専）京都中央看護保健大学校の教育を皆で発展させていきたいと考えている。

■主な学校行事計画

令和5年	4月	6日	ユニフォーム採寸・感染症抗体価検査／新入生
		10日	始講式／在校生
		〃	第41期生入学式
		11日	新入生オリエンテーション（～13日）
		20日	講師会
		27日	実習指導者会議
	5月	12日	看護の日
		17日	健康診断／両学科1・2年次生
		24日	春期レクリエーション祭・新入生歓迎会
		未定	学校法人京都中央看護師養成事業団 第37回理事会・第37回評議員会
	6月	12日	前期試験①／両学科1.2年次生（～13日）
		15日	特別講演／両学科1・2年次生
		17日	第1回オープンキャンパス
		未定	薬物に関する講習／両学科1年次生
	7月	4日	前期試験／両学科3年次生（～7日）
		15日	第2回オープンキャンパス
		21日	学生夏期休業（～8月18日）
		26日	実習指導者会議・夏期研修会
		29日	第3回オープンキャンパス
	8月	19日	第4回オープンキャンパス
		未定	解剖見学／両学科1年次生
	9月	16日	第5回オープンキャンパス
		26日	前期試験②／両学科1・2年次生（～30日）
	10月	21日	第6回オープンキャンパス
		25日	関西看護学生看護研究大会
		28日	看護研究発表会／看護学科4年次生
		未定	学校法人京都中央看護師養成事業団 第38回理事会・第38回評議員会
	11月	2日	看護研究発表会／看護保健学科4年次生（4日）
		4日	指定校推薦入学試験
		10日	学校祭
		18日	公募推薦入学試験前期
		21日	第1回学校運営会議
	12月	2日	保護者会／両学科
		12日	後期試験／両学科4年次生（～15日）
		16日	公募推薦入学試験後期
		19日	第2回学校運営会議
		25日	学生冬期休業（～1月7日）
令和6年	1月	9日	一般入学試験前期
		11日	後期試験①／両学科1・2年次生（～12日）
		12日	第3回学校運営会議
		17日	実習指導者会議
	2月	7日	卒業判定会議

	8日	開校記念日
	17日	一般入学試験後期
	20日	第4回学校運営会議
	28日	後期試験②／両学科1･2･3年次生（～3月4日）
	未定	保健師国家試験
	〃	看護師国家試験
3月	1日	後期試験②／両学科1･2･3年次生（～3月6日）
	8日	卒業講演
	〃	卒業生を送る会
	11日	第37期卒業式
	13日	健康診断／両学科2･3年次生
	15日	防災訓練
	19日	学生春季休業（～4月7日）
	21日	単位認定会議
	未定	学校法人京都中央看護師養成事業団 第36回理事会･第36回評議員会